

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年5月： 貿易黒字の縮小続く

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

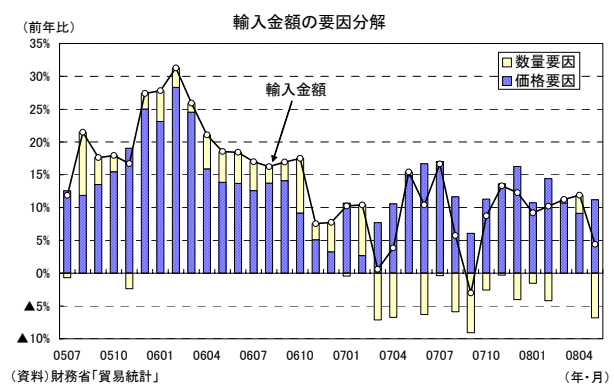
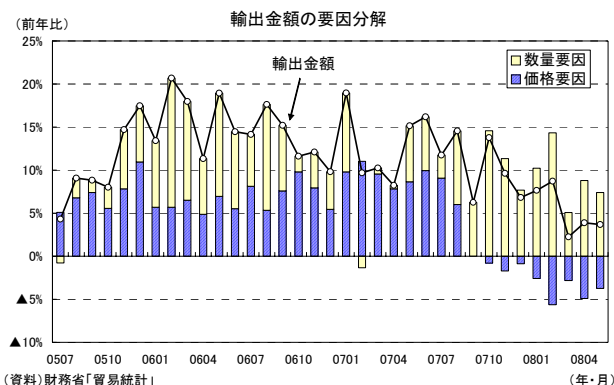
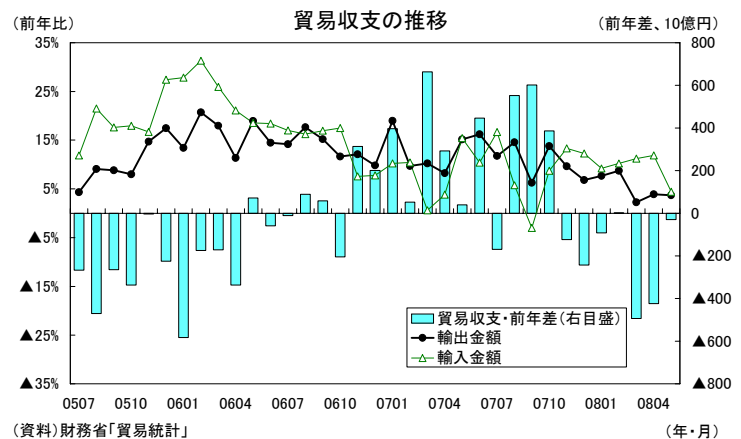
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易黒字は3ヵ月連続で減少

財務省が6月25日に公表した貿易統計によると、5月の貿易黒字は3,656億円（前年比▲7.6%）となった。貿易黒字は3ヵ月連続で前年よりも減少したが、市場予想（ロイター集計：400億円、当社予想は▲32億円）は大きく上回った。

円高の影響で輸出価格が前年比▲3.6%（4月：同▲4.7%）と9ヵ月連続でマイナスとなる中、輸出数量の伸びが前年比7.5%（4月：同9.0%）と鈍化したため、輸出金額は前年比3.7%の低い伸びにとどまった（4月：同3.9%）。

輸入金額は、原油高などにより輸入価格が前年比11.6%（4月：同9.0%）と伸びが高まったが、輸入数量が前年比▲6.4%（4月：同2.6%）と急速に落ち込んだため、輸入金額は前年比4.4%となり、4月の同11.9%から伸びが大きく鈍化した。



貿易黒字の減少幅が市場の予想よりも小さかったのは、輸入数量が大きく落ち込んだことが主因である。ただし、輸入数量の大幅減少は、今年の5月の休日（土日、祝祭日）が昨年よりも1日多

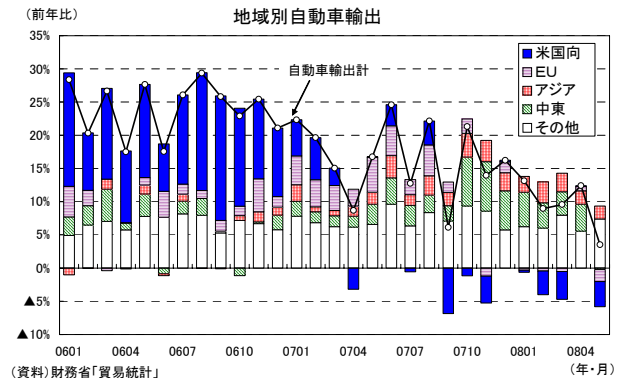
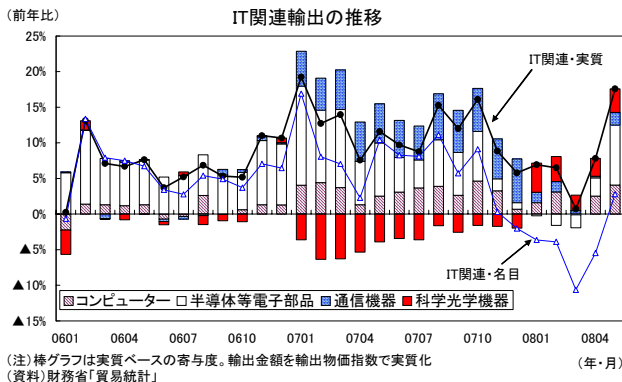
く、通関日数が少なかったことが影響している可能性がある。輸入数量は基調としては横ばい圏での推移が続いているものと判断される。

原油価格は6月に入り上昇ペースが加速しており、輸入価格の上昇率がさらに高まることが見込まれることや、輸出数量の伸びがここにきて頭打ちとなっていることからすれば、6月以降、貿易収支の減少幅は大きく拡大する可能性が高いだろう。

2. 自動車輸出の減速が鮮明に

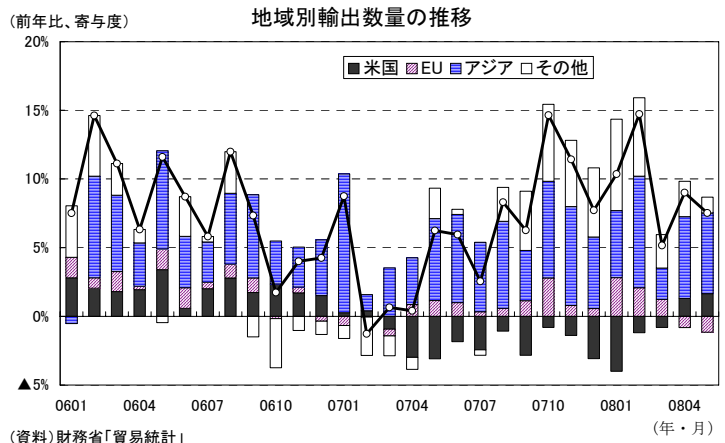
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、コンピューター（名目・前年比▲14.1%）、コンピューター・部分品（同▲0.5%）は減少したものの、半導体電子部品（同2.9%）、通信機（同7.5%）、科学光学機器（同10.3%）が増加したため、全体では前年比2.8%と6ヵ月ぶりの増加となった。IT関連品目は価格の大幅な下落が続いているため、実質では前年比17.6%の高い伸びとなった。

自動車輸出は前年比3.5%（4月：同12.4%）と伸びが大きく鈍化した。アジア向け（前年比24.0%）、ロシア向け（同61.0%）は引き続き高い伸びを維持したが、米国向けが前年比▲10.3%、EU向けが同▲10.9%と二桁の減少となり、これまで高い伸びを続けていた中東向けは前年比▲2.4%と減少に転じた。



輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比8.8%（4月：同6.6%）と2ヵ月連続で上昇し、アジア向けも前年比11.4%（4月：同11.6%）と高い伸びを維持したが、EU向けは前年比▲8.6%（4月：同▲5.9%）と2ヵ月連続でマイナスとなった。

中東、ロシアなど、主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出はこれまで高い伸びを続け、米国向けの落ち込みをカバーしてきたが、5月の「その他地域」向けの寄与度は1.2%（当研究所による試算値、4月は2.6%）にとどまった。昨年後半に比べると増加ペースは鈍化しており、米国経済急減速の影響が世界



経済に波及し始めた可能性がある。

米国向けの輸出数量は2ヵ月連続で増加したが、07年4月、5月が前年比で二桁の落ち込みとなった反動によるところも大きい。また、米国向けの輸出価格は前年比▲16.8%（4月は同▲14.7%）と大幅に低下しており、この結果、輸出金額は前年比▲9.5%（4月：同▲9.1%）と引き続き大幅な減少となっている。価格が大幅に低下した分、数量の伸びが押し上げられていると見ることもできる。

なお、4月の米国向けの輸出数量は速報段階では前年比11.4%だったが、確報値では同6.6%へと大幅に下方修正された（輸出価格は上方修正）。6/27に発表される5月の輸出確報値では、輸出価格が上方修正、輸出数量が下方修正される可能性もあり、現時点で米国向けの輸出数量が回復に転じたと判断するのは早計だろう。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。